≪正誤表≫ 測量学(第2版) 第2版1刷[2014年2月28日]

内容に誤りがありました。謹んで訂正いたします。

頁	場 所	誤	正
19	2 行目	$= -2\sum_{i=1}^{n} \frac{(l_1 - x)}{\sigma_i^2} = 0$	$=-2\sum_{i=1}^{n}\frac{(l_{i}-x)}{\sigma_{i}^{2}}=0$
24	表の1行目,右	$p_i \ a_{i2} \ l_2$	$p_i \ a_{i2} \ l_i$
31	7行目	$=m_0\left/\sqrt{\sum\limits_{k=1}^s {b_{ik}}^2/p_k} ight.$	$=m_0 \int_{k=1}^{s} b_{ik}^2/p_k$
35	7 行目	$\phi = \alpha_0 + \alpha x$	$\phi \equiv \alpha_0 + \alpha x = 0$
75	下から4行目	水平線 H を基準に	水平線を基準に
76	4 行目	度の単位は,	角の単位は,
88	下から7行目	鉛直軸として直交して	鉛直軸と直交して
138	下から5行目	2 等:30 mm,	2 等:3 <mark>9</mark> mm,
181	表 8-3 の 1 行目	$e_k - l_j$	$e_k - \frac{e_j}{}$
206	4~5 行目	を 図10-2 の点A <mark>を基準点</mark> として	を図の点 A として
215	13 行目	図 4-35, 式(10-1), 問題 10-4	図 4-36, 式(10-1), 例題 10-4
242	図 11-11	(参考文献 4)(1)より)	(参考文献 3)(1)より)
245	下から 12 行目	$Y = (Y_1 - Y_2)/2 =$	$Y = (Y_1 + Y_2)/2 =$
279	下から1行目	$(360$ 度÷ $200) × \pi$	(360 度÷200 <mark>0</mark>)×π
312	下から 11 行目	作られるのが部材の名称は	作られるが、部材の名称は
313	12 行目	所定の堀削線を	所定の <mark>掘</mark> 削線を
315	下から 10 行目	向かって堀り進める	向かって <mark>掘</mark> り進める
321	5 行目	h=a+b=Hとなる。	h=a+b+H となる。
323	問題 13-4(解)	(解) ①中心坑上に	(解) ①中心 <mark>杭</mark> 上に
324	5 行目	【A】 太宝律令(701年)の	【A】 大宝律令(701年)の
333	表 14-1 左下	中心線間隔	中心点間隔
340	下から9行目	中心線の見直しができれば,	中心線の見 <mark>通</mark> しができれば,
341	表 14-6	(公共測量作業規定の準則)	(公共測量作業規 <mark>程</mark> の準則)
344	下から 13 行目	$\delta = 35'49'', \rho = 24.998$	$\delta = 35'49'', \rho = 24.999$
346	下から 14 行目	相互に見直し可能とする。	相互に見 <mark>通</mark> し可能とする。
346	表 14-7 最右欄	$20^{\circ}14'59''$	20° 15 ′ 00 ″
348	11 行目	測量作業規定の準則,	測量作業規 <mark>程</mark> の準則,
349	下から3行目	レッド[測深錐]	レッド[測深 <mark>錘</mark>]
349	表 14-9	レッド[測深錐]	レッド [測深 <mark>錘</mark>]
350	6行目	であれば、見直し線上で	であれば,見 <mark>通</mark> し線上で
364	右段 9 行目 p. 366 の左上に移動	絶対標定 255 背向曲線 338 全球測位衛星システム 189	倍角差 85 背向曲線 338 波高計 354